

Sunflower

健和会大手町病院広報誌



特集

外傷センター



KOHST
KENWAKAI OTEMACHI HOSPITAL
SHOCK & TRAUMA CENTER

健和会大手町病院 外傷センター
救命から社会復帰まで、一貫通貫の外傷医療を

一瞬の判断と、確かな技術。 外傷医療の新しい標準へ。

日本外傷学会より「S評価」認定

2025年10月1日付で日本外傷学会が実施する外傷診療施設機能評価において、「S」評価の認定を受けました。この「S」評価は、外傷診療に必要な体制・技術・教育・連携のすべてにおいて、全国的にも高い水準を満たした施設にのみ与えられるものです。北九州市においても「S」評価を取得した医療機関は当院のみです。



サイトビジット審査の様子



現場対応の様子



Trauma Team Activation (TTA) : 重症外傷チーム呼出体制

年間100件以上の発動実績



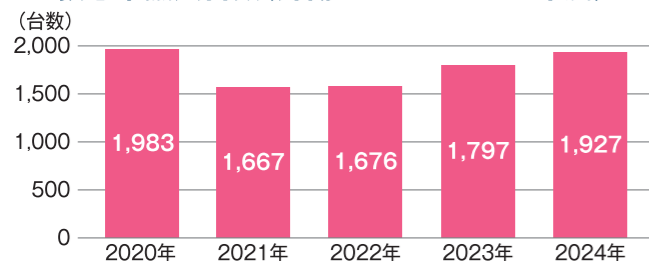
覚知要請について

2026年より重症外傷例については北九州消防局の指令センターより、キーワード方式での覚知同時要請出動を開始しました。これにより重症外傷例に迅速な医療を病院外から提供できる体制を整えています。

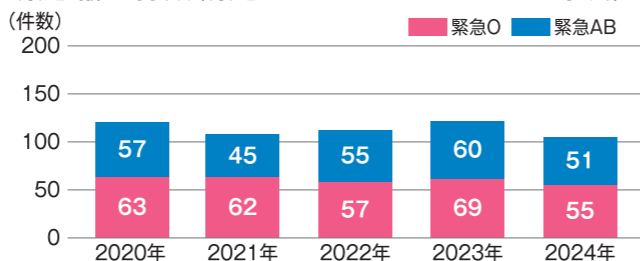
MTP (大量輸血プロトコル)

患者到着前に発動可能
RBC 6単位 / FFP 6単位 自動準備

救急車搬入台数 (外傷 2020~2024年度)



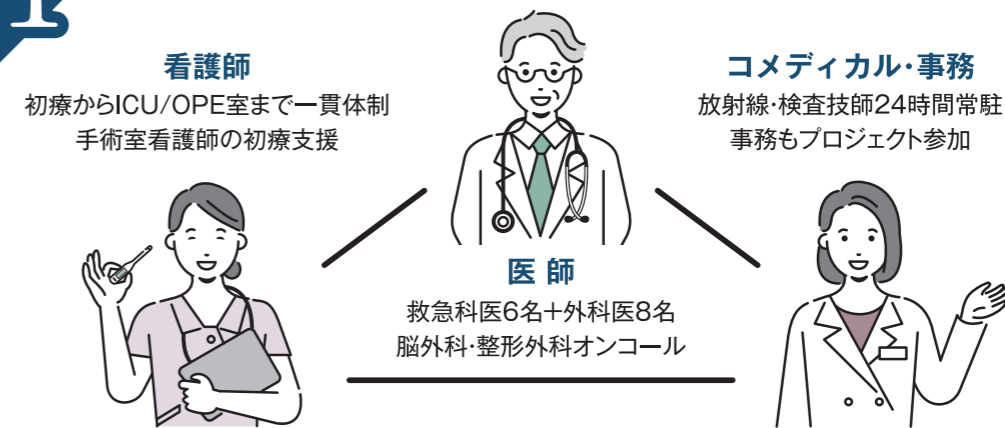
緊急輸血件数 (緊急O・AB 2020~2024年度)



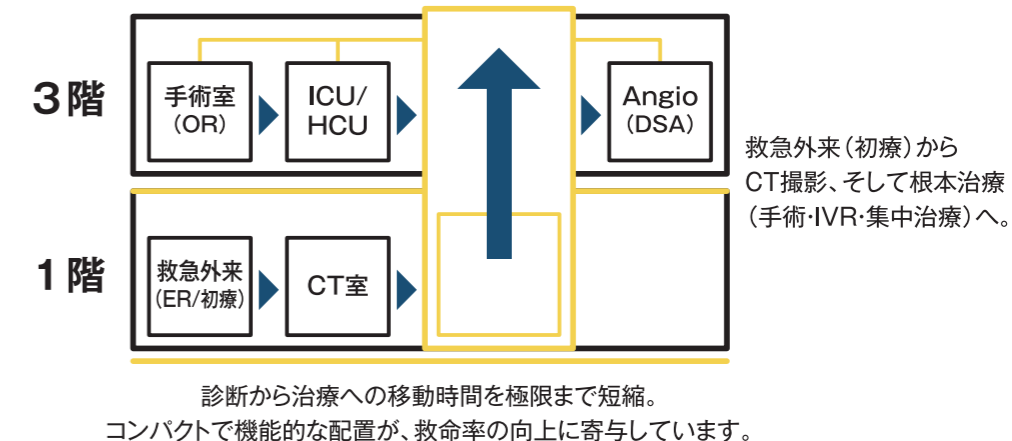
チーム呼び出し件数	2020年度		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度	
	外傷チーム	CPAチーム	外傷チーム	CPAチーム	外傷チーム	CPAチーム	外傷チーム	CPAチーム	外傷チーム	CPAチーム
外傷チーム	184	86	146	94	158	104	147	107	123	131

当院の強み

1 職種の壁を超えた「ワンチーム」



2 タイムロス・ゼロの「究極の動線」



3 全国屈指の「輸血・検査体制」

「検査技師による輸血の搬送・管理体制は、全国的にも稀に見る強みである」
(サイトビジット審査員の評価)



「命」を救い、「その後の人生」を守る

——地域を支える大手町外傷センターの外傷診療

健和会大手町病院
副院長・外傷センター長
三宅 亮

■外傷診療の乗り越えるべき 「2つの悲劇」

外傷は突然やってきます。昨日まで当たり前であった日常が、不慮の事故によって一瞬にして奪われてしまう。この理不尽さに対して、外傷医療に関わる私たちが常に意識しなければならない目標があります。それは「防ぎ得た死」と「防ぎ得た後遺障害」をなくすことです。本来助かるはずの命を落とさないこと、そして麻痺などの後遺症を最小限に抑え、患者さんが再び社会生活に戻れるようにすること。この両方を達成して初めて外傷医療は成功したと言えます。

■四半世紀にわたり 続く外傷医療の取り組み

当院では2000年に外傷チームを立ち上げ、四半世紀にわたり外傷診療体制の整備を続けてきました。救急科、外科、整形外科、脳神経外科、麻酔・集中治療科など多くの診療科が連携する外傷チーム医療を早くから構築し、現在まで継続しています。

また1980年代からはドクターカーによる病院前診療にも取り組んでおり、現場から病院まで切れ目のない外傷医療体制を築いてきました。外傷チームを四半世紀以上長年にわたり継続してきた施設は、全国的にも決して多くありません。

■地域外傷医療の中核として (外傷診療施設S評価)

こうした取り組みが評価され、日本外傷学会による外傷診療施設機能評価においてS評価を取得しました。この制度では全国でも限られた施設のみが認定されており、重症外傷患者を受け入れる体制やチーム医療、教育体制が高い水準にあることを示しています。

現在、当院では年間8000台を超える救急搬送を受け入れています。多発外傷では一人の医師だけで対応することはできません。日本外傷学会外傷専門医を中心に、各診療科の医師、看護師、コメディカルが連携する外傷チームが初療から手術、集中治療、リハビリまで一体となって診療にあたっています。

さらに2026年からは119番通報の段階で重症と判断された場合に医師が現場へ向かう覚知同時要請も開始し、救急隊と連携しながらより迅速な外傷診療を目指しています。

■地域で守り、地域へ帰す

外傷医療は病院だけで完結するものではありません。事故予防、迅速な通報、救急隊の初期対応、そして病院での蘇生・手術・急性期リハビリ。その後、地域の先生方や回復期医療機関が社会復帰を支える。この流れが切れ目なく繋がることで、患者さんの人生を守る医療が実現します。

私たちは地域の重症外傷診療を支える拠点として、いわば“最後の砦”の役割を担いながら、命を救うだけでなく、その後の人生まで守る外傷医療をこれからも続けていきます。



人材育成への投資と教育文化 ～個人スキルを組織の力へ～

資格取得支援



JATEC、JPTEC、JNTECなどの外傷関連コース受講費用(交通費、宿泊費含む)を病院が補助。

院内・院外学習会

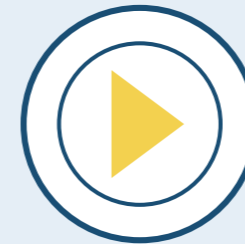


職種を超えた「外傷学習会」を開催(参加者50～150名規模)。

- ICPモニタリングハンズオン(50名)
- 消防連携学習会(148名)
- 栄養療法勉強会(58名)

質の担保：徹底した振り返りとデータ管理

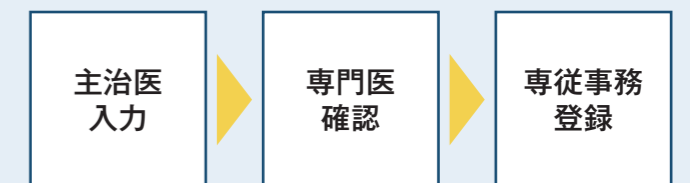
外傷 M&M カンファレンス



- 年4回の高頻度開催
- 外傷に特化した詳細な振り返り
- ビデオデブリーフィング：初療室の録画映像を用い、チームで客観的に検証

AISコーディング率100%

3段階の厳格なチェック体制：



外傷センター メンバー

医師部

センター長
外科／副院長
三宅 亮



副センター長
救急科 部長／ER 統括責任者
馬庭 幸詩



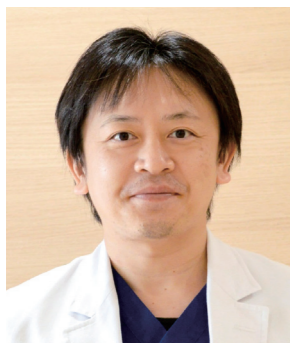
救急科の役割は、病院の入口として「重症度の判断」「資源の即時配置」「手術・輸血・集中治療への接続」を確実に行うことです。来院前情報の段階から診療の全体像を組み立て、初療室を起点に院内導線を整える。これを個人の力量に依存せず、チームで安定して実行することを重視しています。さらに地域の外傷転帰を改善するには、重症例を経験豊富なチームとシステムを有する拠点へ適切に集約することが必要です。救急隊や近隣医療機関と目標を共有し、判断と搬送が迷わず進む関係を築いていくことを目標としています。救えた命の重みと救えなかった悔しさを次へ還元し、一人ひとりの患者さん(n=1)に向き合う文化を、チームで育ててまいります。

四肢・骨盤外傷担当者
整形外科 主任部長
小西 良一

当センターに搬入される症例の大半は整形外傷を合併しています。中でも特に多発外傷においては「防ぎえた外傷死」「防ぎえた外傷機能障害」を回避するために、外傷治療を熟知した整形外科医が初療から積極的に参加し、Damage Control Surgeryを行います。その際に最終手術までの治療戦略をたて、外傷チームで共有し、1日でも早く患者さんをベッドから起こし、離床させることで合併症を予防します。当センターでは重度外傷であっても、外傷治療を熟知した整形外科医が初療から手術・術後管理・リハビリテーションまで一貫して関わることで、より高い機能回復が得られるように努めています。



脳神経外傷責任者
脳神経外科 部長
藤山 雄一



チームの中で、特に“脳を護る”役割を担うのが、われわれ脳神経外科医です。特に頭部の怪我(頭部外傷)を専門に扱うのが日本脳神経外傷学会認定の脳神経外傷専門医です。現在の脳外科チームは、二人とも脳神経外傷専門医・指導医です。
頭部外傷というものは、受傷した瞬間に大きなエネルギーで脳を壊します。この最初のダメージはどうすることもできませんが、まずは救命に徹し、患者さんの人生を取り戻すべく、全力を尽くします。

外傷麻酔担当者
麻酔科 部長
塩塚 健太

当院では外傷センターPJの始動に合わせ、麻酔科が初療室から手術室、ICU・HCUまで一貫して関わる体制づくりを行っています。また、診療各科と連携し、複数部位外傷に対して同時並行で治療を進めることで、救命と機能温存とを両立することを目標としています。さらに、集中治療科と協働し、術後の循環管理・鎮静・呼吸管理まで切れ目なく対応できる点も、当院外傷センターの大きな強みと考えています。



外傷集中治療責任者
集中治療科 医長
吉田 東馬

近年救急麻酔、外傷麻酔という新たな考え方が広まり重症外傷への麻酔科、集中治療科の早急介入によるシームレスな診療体制の構築が重要視されるようになりました。救命後も多臓器不全や感染、凝固異常など、次々と新しい課題が現れます。

外傷センターPJが始動してから、ICU・HCUは“治療の終着点”ではなく、“救命の継続線上にある戦場”へと変わりました。ICU・HCUから患者の“未来”を守る医療を提供できるよう、これからも仲間とともに成長していきます。

看護部

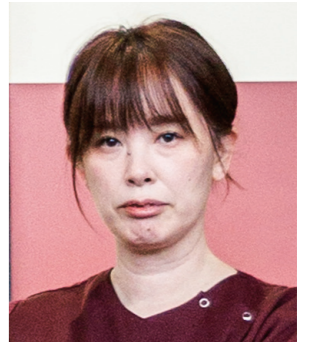
救急外来看護師長
梅崎 望



救急外来の看護部では、救急搬入前から医療チームが救急隊と密に連携し、現場での初期対応や搬送中の観察・処置に参画することで、発生現場から病院到着後まで切れ目のない医療を提供しています。また、グラウンドナースの育成にも注力し、教育体制を整えています。さらに、救急看護認定看護師や集中ケア認定看護師が在籍し、専門的知識と技術を共有しながら実践と教育の両面で支援しています。

HCU看護師長
渡辺 章子

集中治療室は「生理学的破綻を立て直し、根治手術へ繋ぐための中核ステージ」として位置づけられています。切れ目のない治療を継続していくためには、迅速に患者を受け入れ全身管理を開始することが重要であり、外傷治療の輪の一部を担う部門として、日々ER・手術室と連携を図りながら病床コントロールを行っています。



手術室看護師長
南 淳之介



ER・ICU・HCU・救急隊等の各部門と連携を取り、ブリーフィングを行う中で外傷チーム全体のベクトルを合わせ、柔軟かつ正確な症例対応を行っています。症例も多科に及ぶため、シミュレーション教育や外傷学習会に参加し、専門的かつポリバレンタな人材育成を行っています。

手術室看護師は2025年度新規でSSTT(※1)3名、TSAT(※2)1名の外傷資格を修得しました。
※1…SSTTコース【Surgical Strategy and Treatment for Trauma(外傷外科手術治療戦略コース)】
※2…TSAT【Trauma Surgery Assistance Team(外傷外科支援チーム)】

高本 千絵 (看護部長室副看護部長)

菅原 佳枝 (手術室 看護主任)

事務部

吉留 光治 (副事務長／医師部事務局長)

山口 昌紀 (救急事務課 課長)

井手尾 伸一 (医師団事務部 部長)

中橋 厚子 (救急診療サービス部 部長)

三浦 純一 (医師団事務課 課長)

迅速に、確実に、そして最後まで。
外傷医療の新しい形。



KOHST
KENWAKAI OTEMACHI HOSPITAL
SHOCK & TRAUMA CENTER

Our Policy

Ready to respond when life is on the line

北九州市全域の重症患者を救命し、地域医療に貢献する
外傷、緊急手術が必要な症例を24時間365日受け入れる



公益財団法人 健和会
健和会大手町病院

〒803-0814 北九州市小倉北区大手町13-1
TEL 093-592-5530 (連携室直通) | FAX 093-592-5966
E-mail renkei@kenwakai.gr.jp

●広報誌に関するご意見・ご要望は上記までお願いします。差出先の明記がある方には直接ご連絡にて説明させて頂くこともあります。



<https://otemachi.kenwakai.gr.jp/>